

「夢中」がひらく「探究」の道

ゲスト さかなクン

(東京海洋大学客員教授・名誉博士)

魚の魅力や環境について発信し続け、東京海洋大学客員教授・魚類学者として活躍するさかなクンは、「みんなの『探究』応援大使」(文部科学省/2023年8月)としても活躍中です。「夢中」になることから始まる学び、主体的に探究を楽しむ様子を、子どもの視点からいきいきと語ってくださいました。教育現場に活かせるヒントがたくさん見つかりそうです。

魚はギョ感(五感)を豊かにしてくれる

池上 さかなクンは魚類学者として活躍されています。魚を食べることも好きですか。

さかなクン (以下さかな) はい。お魚は普段からおいしくいただいています。小さなお魚は丸ギョと食べることも多いです。また、魚卵も好物です。魚の卵はとても小さいのですが、そこに大きくなるための力がみなぎっていて、まさに命をいただくという感じでギョざいますね！ あら汁は、元気がないときやお腹が減りすぎて倒れそうときに飲むと、飲んだ瞬間、お魚パワーがギョギョと全身を駆け巡ります。池上先生は、お魚、お好きですか？

池上 母が長野県出身でしたから、昔は新鮮な魚があまり手に入らなかったようで、我が家は魚というとサンマかアジの開きでした。子どもの頃は生の魚をほとんど食べたことはありません。刺身を初めて食べたのは社会人になってからです。生の魚という

ものは、こんなにおいしいのかと驚きました。今日は、昼食にキンメダイをいただきました。

さかな キンメダイちゃん！ おいしいですねー♪ お口がちよっと上向きで、その名の通り、金に輝く大きなお目目が特徴です。深海に暮らすため、わずかな光も反射させて、しっかり見るためと言われていいます。お魚屋さんに並んでいると全身が真っ赤なのですが、泳いでいる姿は背中のみが淡い赤色で、そのほかは白っぽいピンク色です。

漢字で書くと「金目鯛」。「鯛」とつきますからマダイなどのタイの仲間かと思いきや、体のつくりもひれの特徴なども全然違います。キンメダイちゃんとマダイちゃんは分類学で言えば、ネズミさんとネコさんぐらい違うのです。生き物の分類階級は、大きく界・門・綱・目・科・属・種の7つ。どちらも界は動物、門は脊索動物門、綱は硬骨魚綱ですが、ここから、キンメダイちゃんはキンメダイ目キンメダイ科キンメダイ属、種はキンメダイ。マダイちゃ



細部までリアルな絵を描きながらイラストを使って解説。瞬発的な集中力で完成させた

んはスズキ目(近年はニザダイ目に分けられることも)タイ科マダイ属、種はマダイでギョざいます。

池上 いやあ、さっきまたまた食べたキンメダイについて少しお伝えしたら、リアルな絵を描きながらこれだけ詳しい説明をいただけたのは驚きです。

さかな 泳ぎ方も違うのでギョざいます。マダイちゃんは、泳ぐ時は主に尾びれを振って推進力を得て活発に泳ぎます。また、流れの強い場合にバランスを保ちブレイキをかけるときは、胸びれ、背びれ、腹びれ、臀びれを巧みに使います。飛行機さんが飛行や着陸の時に、さまざまな手順が必要なのと同じ

です。一方、キンメダイちゃんは、普段は尾びれをほとんど使いません。鳥の羽ばたきのように胸びれを動かし続けます。だから、自身のお魚なのに胸びれの筋肉が発達してそこだけ赤身になるのです。ところで、池上先生がお召し上がりになりましたキンメダイちゃん、皮はついていましたでしょうか。

池上 はい。皮もとてもおいしかったです。

さかな さすが職人さんです。皮に栄養が詰まっていますから、湯を上から通して柔らかくして、皮目をあぶると香ばしくなってさらにおいしいです。

池上 食べ方についても実に詳しいですね。
さかな お魚はいろんな食べ方ができるところも素晴らしいのです。煮ても焼いても揚げても、お鍋料理でもおいしい。味わう、見る、触れる、香りを嗅ぐ、音を聴く、つまりギョ感(五感)で堪能できます。お魚はギョ感を豊かにしてくれるのです。

「知りたい」が「探究」の原動力に

池上 少しお話しただけでもさかなクンの魚への深い愛を感じます。実は、幼い頃から「魚一筋」というわけではなかったとか。

さかな ハイハイをしていた赤ちゃんの頃から絵を描くことは好きでしたが、最初に夢中になったのはお魚ではなくトラックさんです。ゴミ収集車さん、コンクリートミキサー車さんなど、働く車を見ると感動して絵を描かずにいられませんでした。

朝、ゴミ収集車さんが音楽を流しながらやってくと「来たー」と飛び起きて、「今日は三菱のキャンターさんかな？ いすゞのエルフさんかな？」とパジャマのまま家の前に飛び出て行きました。

池上 三菱(現在の三菱ふそうトラック・バス株式





ジャーナリスト
いけがみ あきら
池上 彰 (聞き手)

1950年、長野県生まれ。ジャーナリスト。名城大学教授。慶應義塾大学卒業後、73年、NHK入局。報道記者として勤務。94年から11年間、「週刊こどもニュース」のお父さん役を務め、子どもたちにわかりやすくニュースを解説。2005年、NHKを退局。『池上彰の社会科教室』(帝国書院)『池上彰が話す前に考えていること』(新潮社)など、著書多数。本誌の対談を集録した『池上彰が聞いてみた「育てる人」からもらった6つのヒント』(帝国書院)も好評発売中。近刊『そうだったのか! 中東』(集英社)。テレビ『池上彰のニュースそうだったのか!!』出演。

会社)、いすゞ(いすゞ自動車)は車のメーカー。キャンター、エルフはトラックの車種ですね。本物の収集車を近くで見るとうれいでしょうね。

さかな 運転手さんに「ちょっと止まってください」とお願いするのですが、「坊や、それはできないよ」と笑顔で言われました。そこで、近くにいる間はその場で凝視して絵を描いて、ゴミ収集車さんが動き出すと追いかけていました。

すると、あるとき母が「いいところへ連れて行ってあげる」と車に乗せてくれました。「目をつむって。いいと言うまで開けないでね」と言います。もう、ドキドキしながら「どこへ行くのかな?」と楽しみにしていました。車が止まって「いいよー」の母の声で目を開けた瞬間、「うわあー!」と叫びました。目の前にゴミ収集車さんが30台くらいずらりと並んでいました。「こんな夢のような場所があるんだあー!」と、それはもう大興奮でした。

池上 そんな場所を探して、ワクワクする演出をして連れて行ってくれたお母さん、すごいなあ。

さかな すぎ요いんです! ゴミ収集車を中心に、いろいろな働く車と、水木しげる先生の作品に出てくる妖怪にも夢中でした。一反もめんさん、ぬりかべさん、朱の盆さん……。妖怪はもろろん怖いのですが、よく見ると表情がとて豊かなんです。毎日のように本を読んだり絵を描いたりしていました。

池上 もしかすると、さかなクンではなく、「トラッククン」や「妖怪クン」になっていたかもしれないですね。魚に夢中になったきつかけは?

さかな 小学校2年生の時、クラスメイトがタコちゃんの絵を描いていたんです。それはそれは、今にもノートから飛び出てきそうな迫力のある絵でした。「この生き物は一体何だろう?」と思い、放課後すぐに図書室に行つて、『動物』『恐竜』『虫』『魚』『海の生き物』など、生き物の図鑑を全部並べて調べました。

池上 からかっていた子も、お礼を言われたのでは拍子抜けでしょうね。

さかな 自分自身、その時は、からかわれていることにも気づきませんでした。そのうちに、「タコってそんなに面白いの?」「タコの絵を描いて!」などと、興味を持って声をかけてくれたり、絵を描いてと頼まれたりすることが増えていきました。

池上 著書『さかなクンの一魚一会 ~まいにち夢中な人生!~』には、群れで泳ぐ魚を狭い水槽に入れるといじめが始まるというお話もありました。

さかな 池上先生! お読みいただきありがとうございます。海では仲良く群れて泳いでいるのに、狭い水槽にたくさん入れるとなぜか1匹ずついじめっ子といじめられる子が出てきてしまいます。いじめられた子を救出しても、いじめの子を別の水槽に移しても、またいじめが起る。広い海の中ではこんなことは起こらな

池上 「何だろう」「もつと知りたい」と思う気持ち

が、調べるという行動につながったのですね。
さかな はい! 知らないトラックさんに出会うと図鑑で調べる習慣があったので、それと同じです。「海の生き物」の図鑑の中にタコちゃんを見つけた時はうれしかったです! ワクワクが広がり、「本物を見たい!」と学校からお魚屋さんに行ったら自分の顔ぐらい大きなマダコちゃんが目飛び込みました。学校帰りでお金もないので全速力で家に帰って、「お母さん、タコ買って!」とお願いすると、「よし、一緒に買いに行こう!」とスーパーマーケットに連れて行ってくれました。だけど「これだね」と母が見つけたのはタコちゃんの切り身でした。

池上 お母さんは、さかなクンがタコを食べたいと思ったのでしょうかね。

さかな そうなんです。そこで、「観察して絵を描いたり、吸盤を数えたりしたいんだよお!」と伝えたら、「じゃあ、描きたいタコちゃんを探してみて」と言われ、おでんコーナーでとびきりかわいい小さなイダコちゃんを見つけ感動しました。その頃から、放課後になると一人で自転車で乗っているからお魚屋さんに行くようになりました。

池上 タコとの衝撃的な出会いから、興味も行動範囲も広がっていったのですね。

さかな 母はよく水族館にも連れて行ってくれて、「タコちゃんも面白いけど、お魚も面白いよ」と、魚の写真がたくさん載っている下敷きを買ってくれました。その下敷きのウマヅラハギちゃんを見て感激し、「うわあー!! このお魚に会いたい!」と強く思ったことからお魚への興味ははまりました。
池上 ウマヅラハギは馬の顔に似ているのですか。



『さかなクンの一魚一会 ~まいにち夢中な人生!~』さかなクン著 講談社 1,430円(税込) 映画『さかなのこ』の原作となった自叙伝

いのに、小さな水槽の世界に閉じ込めるとなぜかそうなるってしまうのです。私たち人も狭いところにいると、いじめが始まってしまうのかもしれない。

池上 学校の先生にとって、そのお話は大きなヒントになりそうです。
さかな 中学生の時、小学生の頃からの友達と見学に行つて、そのまま吹奏楽部に入りました。実は、「スイソウガクブ」と聞いて、「水槽を学ぶ」部活動(水槽学部)があると勘違いしたことがきっかけでした。最初は、「あれれ!! 水槽もないしお魚もないじゃないか」と愕然としましたが、見たこともないいろんな形や大きさの楽器が甲高い音や地響きのように低い音を出している様子は、多様なお魚の世界のように見えてきました。音もそれぞれに違って面白いのです。一つ一つの楽器に固有の魅力があって、妖怪やお魚の世界と似ているなあと思いついて夢中になりました。

ある時、その部活動の中で仲間はずれにされている同級生と魚釣りに出かけました。自分から特別なことはできませんでしたが、その子と一緒に広い海を眺めているだけで、不安そうな表情が穏やかに



東京海洋大学 客員教授・名誉博士

さかなクン

東京都出身。館山市在住。テレビ東京のバラエティ番組『TVチャンピオン』で5連覇し、殿堂入り。魚の情報や知識、おいしい食べ方、環境問題などをテーマに全国で講演を行う。画家・イラストレーターとしても活躍。東京海洋大学客員教授・名誉博士。2010年、絶滅したと言われていたクニマスの生息確認に貢献。海洋に関する普及・啓発活動の功績が認められ、海洋立国推進功労者として内閣総理大臣賞受賞。2022年、映画「さかなのこ」公開。現在NHK Eテレ「ギョギョッとサカナ★スター」出演、「朝日小学生新聞」コラム「おしえてさかなクン」連載中。



80年代の三菱キャンターが大のお気に入り。プロデュースした同車のミニカーについて池上さんに解説中

夢中になれることから「探究」が始まり 興味や関心が世界へと広がっていく

活動からは離れましたが、会うととっても元気な笑顔を見ることができるようになりました。

高校生になってやんちゃなグループに絡まれたこともありました。「そんなに魚が好きなら釣りに行くべよ！」と言われ、海で一一緒に釣りをすることになったんです。広い海を見てお魚が釣れるたびにグループのみんなは、いかつい表情からかわい少年のような表情に戻っていききました。夕方になって帰る頃にはすっかり仲良くなりました。

これまで、そんなことがたくさんありました。お魚パワーはもちろん、狭い場所から大自然の中や広い海に出ると、嫌なことを忘れたり仲良くなったりできるのかもしれない。

自由に泳いでいたら本当に「さかな」になった

池上 学校の先生は、さかなくんが魚に夢中になっている様子をどんなふうに捉えていましたか。

さかな いろんな先生がいらっしやいました。小学校では、「そんなことではいけません！」と正そうとしてくださる先生もいましたが、ニコニコと「魚博士」と呼んでくれる先生や、「先生も一緒に釣りに行きたいなあ」と興味を持ってくれる先生もいました。自分は勉強が苦手でしたが、家庭学習でお魚

のことを真剣に調べて絵を描いて提出するのを釣りの好きの先生たちがとても楽しみにしてくださって、担任の先生が毎週「みーぼー新聞」「みーぼー」は、さかなくんの当時のあだ名）として掲示してくださり、続けることのやりがいを実感しました。

でも、家庭訪問などでは、「お子さんはお魚が好きで、絵が上手なことはいいのですが、授業中も魚の絵ばかり描いています。もう少し学校の授業に集中するようにしてもらいたいです」と言われたようです。母は先生に、こう答えました。

「あの子はお魚が好きで、絵を描くことが大好きなので今のままでいいんです。みんな同じことをしていたら、ロボットと同じですよ」

池上 その子らしさを大切にしたいということなのでしょうね。お母さんは、小さい頃から好きなことや興味を持ったことをとことん探究するさかなくんが、自分で探したり観察したりすることを見守りながら、興味を広げ、新しい世界につながるきつかけを与え続けてくれたのでしようね。学校での「探究学習」などでも参考になりそうです。

さかな 母は一度も、「お魚のことはもうこれくらいにしなさい」「もっと勉強しなさい」などと言ったことがありません。後に「自由に泳がせていたら、

思いで調べる中で、絶滅していたと思われていたクニマスちゃんが姿を見せてくれました。

「TVチャンピオン」の時もそうです。目隠しをして食べて何のお魚かを当てる問題もありましたので、家族や町のお魚屋さんやお料理屋さんがギョ協力してくれて、いろんなお魚料理を食べました。見て触れて、食べて体感しないと本物の知識は身につかないというの、その時に実感したことです。ワクワクする気持ちと共に物事に真剣に向き合っていると、たくさんの方がギョ協力してくださいます。そのおかげで、さかなくんが、あります。お魚にも人にもとても恵まれ、究極の幸せ者です。

「探究」することが人生を開いてきた

池上 国連大学サステイナビリティ高等研究所の客員研究員も務めています。環境を守るさまざまな活動もされていますが、今は何に興味がありますか。

さかな 特定の魚種について考慮したり対策したりすること、取り巻く環境等も大切ですが、日本や世界全体を俯瞰して見ることが大切だと思います。日本にはおよそ5千種、世界にはおよそ3万種のお魚がいるうち、私たちが食用などで主にいたたくお魚は数十種。これでは、限られた特定の魚種に負担がかかりすぎます。漁獲されても、知られていないというだけで食用として活用されないお魚がたくさんいます。もっと広い目でさまざまなお魚がありがたくいいただきたいですね。また、水温上昇も大きな問題です。お魚は環境の変化に敏感な生き物ですから、水温が1度上がると大変です。3度も上がれば、私たちなら救急車を呼ばなければならぬほどです。お魚は私たちにいろんな感動を伝えてくれますが、い

本当に「さかな」になれてよかったね」とうれしそうに笑ってくれました。

池上 そうして大好きな魚のことを突き詰めてきたおかげで、今のさかなくんがある。バラエティ番組

『TVチャンピオン』の「全国魚通選手権」に出演されたのは高校生の頃ですか。

さかな 高校3年生になった春でした。その頃の自分は引っ込み思案で目立たない感じだったので、その番組を見て、「この場に出て、お魚の超難題に答えてみたい。どこまでできるか挑戦してみたい」と、初めて挑む心を持ちました。そして誰にも言わず、応募用紙がききにお魚の絵をいっぱい描いて投函しました。予選を通過し、会場の魚市場で自分が正解した時のことです。お魚のプロフェッショナルである魚市場の職員さんや漁師さんたちが「すごい！」と笑顔で拍手してくださいるので、あまりのうれしさに声を出して飛び跳ねると、周りの皆さまがさらに喜んでくださいました。それまでは人前で喜びを表すことはほとんどなかったのですが、以来、飛び跳ねて喜べるようになりました。今の「さかなくん」のようになったのはその頃からだと思います。

池上 その後、5連覇して殿堂入り。それに、小学校の頃に卒業文集に書いた「東京水産大学（現在の東京海洋大学）の先生になりたい」という夢も叶えることができましたね。2010年には、絶滅したと思われていたクニマス発見にも貢献されました。

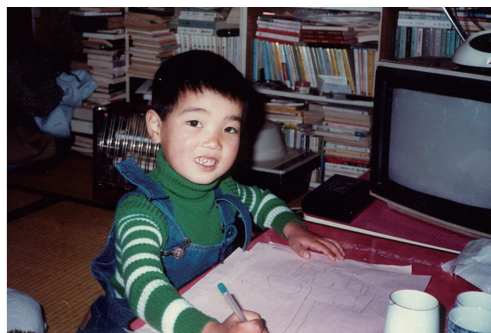
ろんな危機も訴えています。「北海道でサケではなくブリがとれるようになった」というのは、ただ食べるお魚が変わるだけでなく、サケちゃんやブリちゃんからの警告かもしれません。こうしたことも、しっかりと受け止めていきたいです。

池上 まず一つのことには夢中になって探究が深まり、世界に興味や関心が広がっていくのでしようね。幼い頃から自分の目で観察し、図鑑を調べて、さらに自分の五感でも確かめてきたことが、さかなくんの人生を開いてきたように思えます。

さかな 池上先生！ 貴重なギョ機会をいただき、心よりありがとうございます。これからも、お魚と大自然、周りの皆さまに感謝する気持ちいっぱいにお魚パワーでレッツ・ギョー！でギョーございます！

◆ 対談を振り返って ◆

さかなくんの博識ブリはタイしたものです。あまりの知識量にギョッとすることばかり。まさに出世魚のように成長できたのは、彼の成長ブリを温かく見守り、応援した母親の存在があります。また「魚博士」と評価してくれた先生方の存在も大きいですね。「ほかの勉強もしなさい」と強制するのをサケたことは良かったですね。自分が好きなものには一生懸命になる。これはさかなくんに限りません。さまざまな「博士くん」を育てていくヒントが詰まったインタビューになりました。大漁の気分です。



トラックやお絵描きに夢中だった頃